

Room to Read

2009年度アニュアル・レポート

設立10周年を祝い、次なる10年を描く



ルーム・トゥ・リードは、読み書き能力と教育における男女の格差是正に重点を置き、開発途上国の何百万の子どもたちの人生を変えることを目指して、活動を行っています。

地域社会や現地のパートナー組織、政府と協働して、小学生の読み書き能力と読書習慣を育成するとともに、少女たちが、将来的に自立することができるように必要なライフスキルを身につけて、中等教育を修了できるように支援しています。



親愛なる友人の皆さん

創設者 兼 理事長 ジョン・ウッド

皆さんがご存じのように、私は年季の入った「ロード・ウォリアー（旅する戦士）」です。私の旅は、ルーム・トゥ・リード設立以来、この10年間で百万マイル以上を記録し、サンフランシスコの自宅で過ごすよりも多くの時間を空港で過ごしました。多くの時間を飛行機の中で過ごすことの利点は、その時間をじっくりと読書に充てることができるということです。私は、地球の端から端まで旅している時でも、相当な数の本や新聞、雑誌を、常に持ち歩いているのです。(iPadやキンドルといった携帯型電子書籍端末をくださいとお願いしているわけではありませんが、飛行機のマイレージポイントは引き続きご寄付ください！)



最近の旅で、書評をじっくり読んでいたところ、アルベルト・マンゲル氏の近著、『一読者の読書論 (A Reader on Reading)』から引用された一節に衝撃を受けました。マンゲルは「我々は、その真髄において読書をする動物であり、読書という行為は、広義には人類を特徴づけるものであると私は確信している」と雄弁に語っています。

読書能力と読書をしたいという欲求は、私に大きな影響を及ぼしてきましたし、開発途上国の一人ひとり、その家族、地域社会の生活にも大きな影響を与えることができます。読書能力は、コミュニケーション能力となり、論理的に考え、創造し、夢をみる力となっていきます。同時に私たちは皆、すべての子どもたちがこの機会を得られるべきだと信じています。

**現在、9カ国に住む400万人以上の子どもたちが、
ルーム・トゥ・リードの学校や図書館・図書室を利用しています。**

2

ルーム・トゥ・リードは過去10年にわたり、最低限の教育資源すらない地域に、読み書きのできる環境を作るための基盤を築いてきました。そして皆さんのご支援によりこの10年間で築いたものは、驚くべき結果を生み出しています — 1万室以上の図書館・図書室、1,200校以上の学校、700万冊以上の本を意欲に満ちた若い読者たちの手に届けることができました。現在、9カ国に住む400万人以上の子どもたちが、ルーム・トゥ・リードの学校や図書館・図書室を利用しています。

2010年末までに、この何百万という多くの子どもたちの中に、私たちの女子教育支援プログラムによって継続的に教育を受けることができる少女1万人以上が加わることになります。昨年は、こうした少女たちの96%以上が次の学年に進級することができました。開発途上国の田舎の貧しい家庭で、しかも女の子として生まれた場合、教育を受けられる可能性は極めて低い現状を考えると、これは実にすばらしい数字なのです。やがて、教育を受けた若い女性たちの世代が始まり、彼女たちが自分自身の未来を創造し、地域をよいものに改善していくことを確信しています。彼女たちのこうしたすばらしい成功への基盤作りを支援したことを、我々皆で誇りに思おうではありませんか。

飛行機で世界中を回りながら、ルーム・トゥ・リードの活動を伝える際、最初の10年で我々が達成した成果について誇りを持って話すことができます。私たちが次に何をしようとしているかを話す時、それ以上に誇らしさを感じます。ルーム・トゥ・リードがネパールのバフンダに最初に図書館を設立してから、どのようにして雪だるま式にその数を次第に増やし、ついには本や図書館・図書室、学校をなだれのように次々と増やしていったかを私はこの目で見てきました。そして、本、図書館・図書室、学校は、教育の力で子どもたちの人生を変える「最強の嵐」の要素なのです。

皆さんがこの報告書やお気に入りの新聞や良書などを読んでいる時、世界には、簡単な文章すら読むことのできない子どもたちが何百万と存在することを思い浮かべてください。それは子どもたちの学習能力が劣っているからではなく、ただ単に学ぶための手段がないからです。私たちの目標はシンプルですが、大胆なものです。それは子どもが、たまたまたある時代にある場所である両親のもとに生まれたのは不運だった、と言われる日に永遠に終止符を打つことです。学びたいという強い意欲は人類を特徴づける要素であり、全ての子どもに備わっているのです。ますます小さくなりひとつになっていく世界の市民として、教育への欲求を満たしていくという役割を果たすことは、私たちみんなにとっての責任であり機会でもあるのです。

創設者 兼 理事長 ジョン・ウッド



親愛なる友人の皆さん

共同創設者 兼 最高経営責任者 エリン・ガンジュ

どの非営利団体の存在も最初の10年は、まさにその存在の真価を試されるときです。この比較的短い期間に、組織は最初のひらめきに始まり、将来へと続く基盤作りをします。10年前にルーム・トゥ・リードが設立されたとき、これほど速く成長するとは誰も想像することができませんでした。この10年間で、ルーム・トゥ・リードは飛躍的に成長し、9カ国の途上国に活動を広げ、世界的な教育のリーダーとしての地位を確立しました。また、私たちは人々に勇気を与え、世界的な教育運動に参加する

献身的なボランティアのネットワークを形成することができ、現在ではその数は5,500人以上にのぼっています。

設立10周年目を誇りに思う一方で、私たちの活動がその使命を完了するのはまだまだ先であることも認識しています。ルーム・トゥ・リードは、すべての子どもたちが質の高い教育を受けることができ、その教育によって自分たちの能力を最大に高め、地域社会と世界に貢献できるようになることを思い描いています。私たちは「教育は世界を変えるためのもっとも強力な武器である」というネルソン・マンデラ氏の言葉を強く信じています。しかしながら今日でも、読み書きができない大人は推定7億5,900万人に上り、その2/3は女性です。

教育の欠如は多くの要素に起因するもので、そのすべてに対処することはできないものの、私たちは、最大の影響力があると確信している二つの重要な分野、読み書き能力と教育における男女の格差是正、に力を入れていきます。

3

まん延する非識字問題と、子どもたち一特に少女たち一のための質の高い教育機会の欠如に効果的に対処する新しい方法を探だし、次の10年への目標を特定する努力を続ける中で、私たちは2009年を通して、参加型の戦略的計画過程に徹底的に取り組んできました。ルーム・トゥ・リードの最初の10年では、図書館・学校や児童書という必要不可欠な基盤の整備と、少女たちへの奨学金の提供に焦点を当ててきました。今後は、引き続き教育資源を提供することで地域社会への支援を継続すると同時に、子どもたちの学習成果を効果的に高めるうえで必要な資源をよりよく活用できるように、地域の受け入れ能力の向上にも取り組んでいきます。

教育の欠如は多くの要素に起因するもので、そのすべてに対処することはできないものの、私たちは、最大の影響力があると確信している二つの重要な分野、読み書き能力と教育における男女の格差是正、に力を入れていきます。第一に、初等教育での識字率の向上に焦点を当て、すべての子どもたちが読み書きができるようになる日を目指して取り組みます。第二に、女子教育支援プログラムを継続し、少女たちが中等学校に通い、人生の重要な決定を適切に行うスキルを習得できるように、平等な機会を確保することに注力します。

ルーム・トゥ・リードの新しい世界的な枠組みに沿いながら、最初の10年間の経験を生かし、私たちの組織力を活用できるような新しい方向へと進むべく、着実に次のステップへと踏み出しています。

そうする中で、個々の事情に合わせた読書指導や、少女たちのライフスキル・ワークショップを強化するといった要素を盛り込み、私たちの取り組みを拡大しています。こうした分野は、私たちの強力なプログラムと相まって、支援を受ける子どもたちと開発途上国の教育分野に深く持続的な影響を与えることを可能にすると信じています。

世界中の意欲的な生徒や教師、地域社会と協力し合いながら、次のエキサイティングな10年に乗り出すにあたり、皆さんが引き続き私たちのパートナーとして、ともに取り組んで下さることを心より願っております。教育の力を通して、ともに世界を変えるのです。

共同創設者 兼 最高経営責任者 エリン・ガンジュ

RはReading(読書)のR



1998-1999

アイデアが生まれる

ヒマラヤ山脈をトレッキング中、ジョン・ウッドは、ネパールのバフンダグにある学校を訪問。学校には 450 名の生徒が読める本はほとんどなく、校長が「きっとあなたは、いつか本を持ってここに帰って来てくれるでしょう」と言った。

ジョンは、ディネシュ・シュレスタとEメールを通じて出会い、ディネシュは、寄贈された本がネパールの税関を無事通過し、本が学校に届くように見届けることを約束。

本が子どもたちを助ける

スリランカの図書室

11歳のカスは普段は恥ずかしがり屋なのですが、お気に入りの本はどれかと尋ねられると、彼の顔が突然ぱっと明るくなり、学校にできた新しい図書室からお気に入りの大判の絵本をすぐに見つけて持ってきたのです。躍動感あふれるイラストが描かれたその本は、一匹のハッピーな魚が海で新しい友だちを作る話です。「この魚は泳ぎながら、カニやほかの生き物や巻き貝に出会うのです。それから彼はロブスターやエビと仲良しになります」と、明らかに物語をそらで覚えてしまっているカスの顔は輝いています。



みんなとすぐに打ち解ける社交的な魚とその友だちの物語は、スリランカの東海岸にある近くの孤児院に住むカスの暗い生活とは全く対照的でした。

「お父さんを亡くし、学校に行くために着る服を持っていなかったので、お母さんは僕を孤児院に預けたのです。」カスが説明します。しかし、最近カスの世界は、ルーム・トゥ・リードが学校に色彩豊かな新しい図書室を設立したことをきっかけに、良い方向に向かっていきます。以前図書室は本を保管するために校長室の中にあり、時代遅れで文字ばかりの本がわずかにあるだけでした。子どもたちは、その本をただ眺めるだけであっても、特別な許可を得なければならなかったのです。

カスは、図書室が「世界で一番好きな場所」だと話し、カスやほかの生徒たちの読書能力は、図書室の開設以来、著しく向上してきました。

スリランカ中の図書室のどこでも、このような熱意が見られるようになりました。2009年に導入されたルーム・トゥ・リードの識字向上パイロット（試験的）プログラムと併せて、子どもたちは、図書室で読書能力を養い向上させています。こうした識字向上パイロット（試験的）プログラムでは、教師や司書が教室や図書室で読み方をより効果的に教えられるように訓練し、それに必要な教材を提供しています。このようなプログラムは相乗効果があり、読書スキルを向上させ、子どもたちが数々の新しい本を発見する機会を作り、読書習慣を身に付けていくという循環を作ります。

カスの住む場所から数時間南西に行った所にマタレという地域があります。そこには、ルーム・トゥ・リードの女子教育支援プログラムを受けているドゥランジャリというとても特別な生徒がいます。読書に対する情熱から、彼女は地域のための図書室を自分で始めようと思い立ったのです。「私は幸運でした」ドゥランジャリは言います。「ルーム・トゥ・リードは私の学校に協力して本を寄付してくれました。それがきっかけで新しい未知の世界が広がりました。でも、自分の村にはそのような幸運に恵まれない子どもたちが何人もいたので、私はその子たちのために何かしてあげたかったです」

ドゥランジャリは学校に行くか家事をして一日を過ごします。「この村では、料理や家事手伝いをする以外、女の子ができることはほとんどありません」と彼女は言います。「でも母と同じ道を歩みたくはないのです。仕事を通して人から尊敬される人間になりたいのです。弁護士になりたいと思っています。そうすれば自分の権利のために闘うことができるからです」

ドゥランジャリの仮設図書室は、きちんと整頓された彼女の部屋に設置されています。「古本を集め、友だちや近所の人たちに貸し出しています」彼女はさらにこう語ります。「村のみんなに本の良さをわかってもらいたいのです」。すべての本は台帳に詳細に記載されており、本が貸し出されるたびにドゥランジャリは記録をつけます。どの本がお気に入りかを聞かれると、ドゥランジャリは、手で縫って綴じられた小さな本を枕の下から取り出しました。表紙はシンプルなものですが、タイトルからその内容が明らかでした。それは、『ルーム・トゥ・リードが変えた私の人生』というのです。

「いつかこの本を出版するつもりです」とドゥランジャリは微笑みます。

この内容は、2009年12月11日付け『ファイナンシャル・タイムズ』紙に掲載された、デービッド・ピリングの記事、「スリランカにおけるルーム・トゥ・リードの成果」から抜粋し編集したものです。著作権は『ファイナンシャル・タイムズ』紙に帰属します。



本の運搬には8頭のロバの助けを借り、3,000冊の本がネパールの学校5校に届けられる。

ディネシュがジョンに、今にも壊れそうな2校を再建し拡張する支援をしてはどうかと提案。ジョンは資金の調達を約束。

A photograph of two young girls in school uniforms. The girl on the left is wearing a dark brown sweater with yellow and white stripes on the collar and cuffs, and a matching dark brown skirt. The girl on the right is wearing a black sweater with yellow and white stripes on the collar and cuffs, and a bright blue skirt. They are both smiling and standing in front of a building with a dark wooden door and a window with a metal frame.

BはBook (本)のB

2000

設立！

マイクロソフトを退職し、ブックス・フォー・ネパール（ネパールに本を）を設立。
ジョンはこの新しい事業に専念。



夢がかなう

南アフリカの現地語児童書出版プログラム



物心がついたときから、シャオは物語が大好きでした。小さいころ、口頭伝承の語り手である祖母が、土地の言語であり南アフリカの11の公用語の一つであるセペディー語で、ドラマチックな話や民話などを話してくれるのをうっとり聞き入っていたものです。

生き生きと熱心に話すシャオは、南アフリカ最北端地域のリンポポで、家族の絆の強い家庭に育ちました。父親は伝道師で、母親は伝統的な民間治療師です。シャオの読書好きと語り好きは母親と祖母に刻み込まれたもので、自分が小学2年生の教師の道に進んだのも、このふたりのおかげだと思っています。

教師としての10年間は実り多く充実したものでしたが、シャオは児童書を執筆したいという野心をひそかに抱いていました。その夢は、少女時代に数え切れないほど長い時間を費やして、自分の思いを何冊にもわたって際限なく日記に書きとめてきたことから生まれたものです。作家になることを長年夢みてきたシャオは、ルーム・トゥ・リードの支援によりついにその夢を実現することができました。

2008年、シャオは地元紙に、ルーム・トゥ・リード主催の文芸コンテストの参加者募集の情報が出ているのを偶然見つけました。シャオはその場の思いつきでコンテストに応募したのですが、これは彼女の人生を大きく変えることになる運命的な決断だったのです。コンテストを通じて、シャオは、ルーム・トゥ・リードの現地語出版プログラムが実施する作家のワークショップに参加するよう招かれました。ワークショップで新人作家たちは、執筆技術を高めるように支援され、地元の文筆専門家から指導やコーチングを受けます。ワークショップの指導者たちの励ましで、シャオは自著第一作目である『野ウサギとクマ』の冒頭部分を執筆しました。

『野ウサギとクマ』は、孤独な野ウサギが無関心なクマと友だちになろうとして何度か失敗するものの、復活祭の直前に地元の猟師に遭遇することですべてが変わる、という物語です。この本は、孤独と友情というテーマを掘り下げたもので、シャオにとって親友であった双子の弟が行方不明となったことで生まれた、自分自身の喪失感を題材としています。

「自分の子どもには、セペディー語で読み学んでほしいと思っています。私がそうしたように」とシャオは語ります。シャオは年内に第一子の出産を控えており、自分が受け継いだ読書の喜びを次世代に継承することを心待ちにしています。

2009年、ルーム・トゥ・リード・南アフリカは、出版に向けてオリジナルの10作品を選出し、そのひとつとなった『野ウサギとクマ』は、シャオの言語であるセペディー語で書かれており、シャオは特にこの点に誇りを持っています。「子どものころ大好きだった本は『アレバレ (Arebale)』というタイトルで、セペディー語でく読みましょう」という意味なんです」とシャオは言います。幼少のころ、物語に接した体験があればほど感動的だったのは、それがなじみのある言語で語られたことによるものが大きいと彼女は確信しています。「自分の子どもには、セペディー語で読み、学んでほしいと思っています。私がそうしたように」とシャオは語ります。シャオは年内に第一子の出産を控えており、自分が受け継いだ読書の喜びを次世代に継承することを心待ちにしています。

シャオの赤ちゃんを含め、多くの南アフリカの子どもたちは、まもなく『野ウサギとクマ』の物語を楽しむことができるでしょう。この本は、今夏ルーム・トゥ・リードの図書館に届けられる予定です。



ネパールに2校が開校、数々の図書館・図書室の設立が続き、寄贈された英語の本でいっぱいになる。

ブックス・フォー・ネパールは、主に女子生徒を対象にして、少女たちが学校に行けるように奨学金の授与を開始。このプログラムは後にルーム・トゥ・リードの女子教育支援プログラムへと発展する。

SはSchool (学校)のS



2001

ルーム・トゥ・リード
という名前がつく

ジョンは、ベトナムへの活動拡大に協力を申し出たエリン・ガン
ジュと出会う。
ディネシュとともに、すべての職に地元の人材を起用し、
各国事務所に裁量を与えプログラムを自国に適応さ
せて展開させていくことを誓う



学びの寺院

ラオスの教室

ラオスのサイニャブリー県の草茂る丘にはナサム・コンプリート小学校があり、そこには2つ校舎が建っていて、実に対照的だったのです。一方は老朽化した納屋のようで、木板はぐらついており、戸のヒンジは壊れています。もう一方は、6室が入り大きな窓のついたコンクリートの大きな建物で、頑強なたたずまいをしており、その戸口からは子どもたちの声が聞こえてきます。

「この建物は私たちの宝物なのです」とスーパン校長は、図書館に向かって歩きながら言いました。

「この学校はまさに地域への贈り物です」ステファン前校長も賛同しました。

「初めてここに来たとき、建物のことが気になりました。子どもの勉強意欲を確実にそいでしまう最悪の場所ですよ。モンスーン期には子どもたちは学校を休んでいました。四方八方から雨水が流れ込み、教室が浸水してしまうからです。そのほかにも建物が自分たちの頭の上に現実的に崩れ落ちてくる可能性が常にありました」と笑った後、深刻な口調で続けました。「ただそんなことは誰に訴えても始まらないことは承知していました。建物にはお金が必要で、誰も持っていませんでしたから」。

2007年にルーム・トゥ・リードは新校舎の建設を提案しました。ステファン前校長は思い起こします。「ルーム・トゥ・リードが支援を申し出てくれたとき、私たちは大喜びしました。翌日、親や地域の指導者たち全員にこの知らせを伝えると同時に、ルーム・トゥ・リードのチャレンジ・グラントの一環として自分たち自身が何を貢献できるかを一人ひとりに聞いてみたのです」。

前校長は、人々が新校舎ができる可能性に歓喜する一方で、チャレンジ・グラントの条件におじけづいたのを覚えています。現金またはどのような形態であっても、確実に寄付しようとする人はほとんどいなかったからです。農村地域の大家族はわずかな収入で自分たちの生活もままならないため、躊躇するの無理からぬことでした。しかしステファン前校長が粘り強く学校プロジェクトのために働きかけると、校長室はまもなく寄贈されたセメント袋やはしご、バケツ、その他の建設資材でいっぱいになったのです。

「毎週1回会合を開き、建築資材の在庫を確認をし、進捗状況について地域の人々と共有しあいました」前校長は続けます。「ある夜、私の友人のルング・タイは、自分には子どもがいないにもかかわらずこの会合に参加し、自分のランドローバーで学校の地ならしをすると申し出ました。そして彼はみんなに言ったのです。『この学校はあなたや私のためのものではなく、私たちの子どもたちだけのものでもありません。私たちの孫やその子どもたちのものでもあるのです。想像してみてください。この学校が建設されたら、子どもたちはよい教育が受けられるようになり、私たちのように苦しまなくてよくなるのです』」

ルーム・トゥ・リードはこの地域への約束を守り、ずっと協力してくれています。そのおかげで、今日当校はふたつの村から130人以上の生徒を受け入れています！

64歳のルング・タイは、学校の地ならしをするという約束を果たすために常勤の仕事を退職しました。じきに地域のほかの人々も建設に参加しました。「これは投資だと思ったのです」ルング・タイは満面の笑みで言いました。「この学校は、人々を結びつけこの村の評判を高めたわけではありません。私たちの人生を変えたのです。子どもたちはより良い教育機会を得ることができ、またモンスーン期に病気にならずにすむので前より健康になりました！」

スーパン校長が同意します。「ルーム・トゥ・リードはこの地域への約束を守り、ずっと協力してくれています。そのおかげで、今日当校は二つの村から130人以上の生徒を受け入れています！」

ルング・タイはうなずき、締めくくりました。「これは私たちの新しい寺院です。学びの寺院です」



ブックス・フォー・ネパールは、正式にその名前をルーム・トゥ・リードに変更！



スカラスティック・インクが11,000冊の英語の児童書をルーム・トゥ・リードの図書館に寄贈

GはGirl (少女)のG

2002

最初の転換点



ルーム・トゥ・リードがサンフランシスコに本部を開設し、カンボジアに活動を広げる。プログラムの影響を測るためのモニタリング・評価制度への投資を始める。



より強力な基盤に

バングラデシュでの女子教育

娘の将来に何を望むかについて聞かれた母親のフララは、ためらうことなくこう即答しました。「自立することです」フララはこう続けます。「娘には、誰かに援助してもらうのではなく、仕事をして欲しいのです」

フララは、娘のスジャータに、自分にはできなかったことをさせてやりたいと思います。世界の最貧国の一つであるバングラデシュにすむ女性の大半がそうであるように、フララは若くして結婚し、収入と生活保障の面で夫に頼らざるを得ませんでした。しかし、バングラデシュのチャー地域では、生活保障という言葉は、現実性に乏しいものです。毎夏、モンスーンが襲来し、トタン家や家屋の建つ土地を押し流す危険にさ



いるからです。チャーや小さな島々には、最貧困のバングラデシュ人 350 万人以上が暮らしています。ここでの平均寿命は 50 歳未満で、チャーの住民は、その短い一生のうち、島から島へと 40 回以上も移住することもあります。首都ダッカから 7 時間の距離にあり、電気もなく、商業へのアクセスも限られているため、チャーの住民は、人里離れた貧しい疎外された世界にいます。そのため、差し迫った必要性があるにもかかわらず、この地域で活動する組織は皆無に近い状況です。

「娘さんの将来に何を望まれますか？」

「娘には、誰かに援助してもらうのではなく、仕事をして欲しいのです」

ルーム・トゥ・リードでは、地元の団体である SHARP と協力し、チャー地域でプログラムの活動を開始することを決定し、¹¹ 現在では 234 名の少女たちが女子教育支援プログラムに参加しています。SHARP の社会活動家は、少女たちのメンター（指南役）と擁護役を務め、重要なライフスキル訓練や学用品を提供し、極めて困難な日常生活を乗り越えて少女たちが成功できるように支援しています。

大家族の多いこの地域では珍しく、11 歳のスジャータは一人っ子です。母親は主婦で、父親は本土でレンガ工として働いています。所有財産はないため、政府提供の土地に自分たちで建てた家に家族で住んでいます。

6 年生のスジャータは毎日、学校までの道 2 マイル（約 3km）を徒歩で通学しています。これは長い道のりですが、今では女子教育支援プログラムに参加しているため、以前よりも学校との関わりが深くなっており、スジャータは定時に登校できるように早起きすることも苦になりません。通常の授業で質の高い正規の教育を受け、同時にルーム・トゥ・リードのプログラムを通じて「自己認識」ワークショップに参加するなど、ライフスキルを習得する更なる機会が与えられることで、娘のスジャータは、自信をつけ自立心を育むことができた、母親は言います。家族全員が、スジャータが勉強を続けることの重要性をますます認識するようになり、これがスジャータにとって、優秀な成績を収めることへの励みとなっています。

スジャータが、おませな子猫が出てくるお気に入りの童話について説明している姿を見て、スジャータの母親が、自分の娘が教育を受け、昔の世代の女性とは違う道を選択できるようになるという事実、明らかに誇らしく思っている様子が伺えました。今住んでいる家は一時的なもので自然の脅威にさらされているため先行きは不安ですが、スジャータとチャー地域の何百人もの少女たちは、教育を受けることで強力な基盤を築いているのです。

ルーム・トゥ・リード、ネパールとベトナムでの女子教育支援プログラムを通して、100 名以上の女子生徒を支援。



ドレーパー・リチャーズ財団がルーム・トゥ・リードに 3 年間で 30 万米ドル（約 2,700 万円）の奨励金を授与し、『ファースト・カンパニー』誌がジョン・ウッドの特集記事を掲載。この二つが転換点となり、組織に重大な変化をもたらす。

各国での成果

一年を振り返って



世界中のルーム・トゥ・リードが支援する9カ国のカントリーチームでは、目標の実行と、ルーム・トゥ・リードの質の高い教育プログラムの恩恵を受けられる子どもの数の最大化に焦点を当ててきました。私たちのカントリーチームは、2009年に合計で、2,130の図書館・図書室を設立し、106タイトルの児童書を出版し（100万冊以上の本が印刷されたことになります）、361校の学校を建設し、また9,074名の女子生徒が学校に通えるよう支援しました。わずか1年間で、ルーム・トゥ・リードは、90万人以上の子どもたちに助けの手を差し伸べることができたのです。

ネパール

ルーム・トゥ・リード・ネパールでは、女子教育支援プログラムで著しい成果を上げることができ、現在350名のカムラリ（少女債務労働者）の少女たちをサポートしています。この少女たちは、以前債務労働者として身売りされていた子どもたちで、ある地元のパートナー組織により救済され、現在ルーム・トゥ・リードの支援を受けています。幼いときに親元から引き離されて労働者として働いていたというトラウマ的な体験をしているため、このような少女たちの多くは、自尊心の低さに悩まされ、また学校や地域社会に復帰するのに苦労しています。自尊心や自信を養うことを目的としたライフスキルの習得は、女子教育支援プログラムの重要な役割であり、学業面での支援とともに、少女たちが学校生活に適応し、学校で成功を収めるのに役立っています。今日までに、これらの少女のほとんどが通常の学校に復帰し、現在も67名がスムーズに移行するために橋渡し教育を受けています。

ネパールの現地語出版プログラムは、高い評価を得ているネパリーズ・ソサエティ・フォー・チルドレンズ・リテラチャー（NESCHIL）により、児童文学の分野への多大なる貢献が認められました。2009年に、ネパールの現地語書籍のうち2タイトルが、最優秀児童書と最優秀絵本のカテゴリーで、NESCHILの賞を受賞しました。

ベトナム

現地語出版プログラムを通して、ベトナムの低学年の読者には、読書と塗り絵の両方ができる大判の本が配られました。人気の高いこれらの「大判の本」は、低学年で基礎的理解力を養うのに効果的な手段であり、双方向性の学習が可能になります。合計140名の教師や、司書、学校・教育関係者が、大判の本に関する教師向けの特別研修ワークショップに参加し、これらの大判の本をグループでの読書アクティビティーや物語の読み聞かせ、ほかの教科の授業への橋渡しとしてどのように活用できるかについて学びました。

2002

ルーム・トゥ・リードとブックス・フォー・アジアが協力し合い、本の寄贈を募る活動を開始し、ルーム・トゥ・リードの図書館全体に配布。





ルーム・トゥ・リードのベトナムの女子教育支援プログラムでは、274名のクメール人の少女たちをチャビンから迎えました。チャビンは非常に貧しい地域で、カンボジアから移住してきたクメール人少数民族の住民を多く抱え、メコンデルタで最も中退率が高い地域の一つでもあります。ルーム・トゥ・リードは、女子生徒と緊密に協力し合い、言葉や文化の壁を乗り越えて、学校に在籍し続け、良い成績を収められるように支援しています。

カンボジア

ルーム・トゥ・リードの究極的な目標は、ルーム・トゥ・リードを通して設立された図書館・図書室や学校の責任を、最終的には地域社会が全面的に担うようにすることです。その意味で、カンボジアの3つの州（コンポンチュナン、ポーサット、バタンバン）での402のプロジェクト運営が公式に政府の州教育局に移管されたことは、非常に画期的な出来事でした。教育関係者は、ルーム・トゥ・リードの支援に深い感謝の意を表し、プロジェクトを維持していくことを強く約束しました。図書館・図書室を長期的に運営していけるように、各州で、図書館・図書室の機能と持続性についての勉強会が開催されました。

中等教育の平均修了率が30%を大きく下回る国で、私たちの女子教育支援プログラムに参加した12年生の女子生徒の90%が高校の卒業試験に合格したことは、特筆すべきことです。この女子生徒の多くは、プレイベン州のチャ・シム・カム 13 チェイ・メエ大学（the University of Chea SimKamchay Mea）や、プノンベンのヘルスサイエンス・ロー・エコノミックサイエンス大学をはじめとする大学に在籍しています。

インド

計画やプロジェクトを効果的に策定していくうえで、インドの文化的な多様性に起因した特有の課題に直面します。ルーム・トゥ・リード・インドでは、2009年前半には、私たちのさまざまなプログラムに関わる数多くの教育機関との間の合意の確保と、政府との協力体制の拡大に向けた活動に費やしました。実際に、インドの一部の州政府は、ルーム・トゥ・リードのプログラムを高く評価しており、私たちのリーディング・ルーム（図書室）を参考にした図書館をほかの公立学校に建設しているほどです。

ヒンディー語と英語の本に加えて、ガーワリ語、テルグ語、ラジャスタニ語の三つの少数民族の言語が現地語出版プログラムに加わりました。2009年のタイトルのうち、『パニ（Pani）』と『マクチョの海の旅（Machchho's Ocean Journey）』の2冊が、ボリビア・ワールド・ブック・フェアの一環として、ナショナル・ブック・トラストの最終選考に残りました。また、『メリ・キタブ（MeriKitab）』という新刊も、インドの権威あるナショナル・カウンシル・フォー・リサーチ・アンド・トレーニング（NCERT）により、リーディング・セル・プログラムの読書用教材として最終選考に残りました。

ラオス

ラオスの現地語出版チームは、情報文化省より、2年連続で本の優秀賞を受賞するという栄誉に授かり、2タイトルが受賞しました。受賞したのは、少女の教育への権利について書かれた本、『ナン・オイの夢（Nang Oy's Dream）』と、リサイクルについて学ぶふたりの子どもについての物語、『たくさんのバッグ（Many Bags）』です。政府によりその業績が認められ、このような栄誉を授かったことは、ルーム・トゥ・リードの設定している質の基準が高く、当組織の児童文学の分野への貢献が大きいことを物語っています。

2003

創造性が開花

ルーム・トゥ・リードがインドに進出し、地元での組織化や政府との協力関係に焦点を当てる。結果として、このような関係の構築が、ルーム・トゥ・リードの将来的な運営において重要な活動の手段となる。



スコール財団の支援のもと、ルーム・トゥ・リードがネパールでパイロット（試験的）プログラムを開始し、図書館に並べる現地語の児童書を制作。現地語出版プログラムが誕生することに！



ラオスの女子教育支援チームは 2009 年に、驚愕の事実を発見したのです。初等教育から中等教育に進学する過程で退学した女子生徒の大半が、人身売買の被害者となったり、家計を助ける必要に迫られていたのです。この問題に対処するために、サニャブリー州とサラワン州の地元チームが、保護者を対象に、人身売買に伴う危険性についての勉強会を 3 回実施しました。この勉強会の目的は、保護者の女子教育に対する理解を向上させ、保護者、地域社会、ルーム・トゥ・リードの間の絆を深めることにありました。

スリランカ

14

2009 年 5 月に、政府軍がタミル・イーラム解放の虎に勝利し、25 年間続いたスリランカの内戦が終結を迎えました。スリランカ北部と東部での長期的な紛争が終結したことで、ルーム・トゥ・リードなどの国際組織がこれらの地域で復興に向けた支援を行えるようになりました。私たちはまず、幼稚園の設立にとりかかり、教師の研修を手配し、また紛争により難民となった 6 万人の子どもたちとその家族のために、移動式図書館を利用して、10 万冊以上の児童書を配布しました。2010 年には、難民の再入植がいち早く始まると考えられる地域の一つである、マンナール地区で、図書館・図書室と学校の設立に加え、女子教育へのサポートを確立していきます。

ルーム・トゥ・リード・スリランカより出版された 18 タイトルに加えて、作家およびイラストレーター向けワークショップの参加者が執筆した 50 の物語（シンハラ語で 25、タミル語で 25）が、ほかの出版社から刊行されました。私たちのワークショップで訓練を受けた作家やイラストレーターは、これから数多くの物語を生み出し、子どもたちが利用できるスリランカの児童書の数は今後ますます増えていくでしょう。

南アフリカ

教育省と協働して 75 の図書室が公式にオープンすることを記念して、2009 年 3 月にライブラリー・ウィークが開催されました。すべての図書室を視察した後、教育省は、ルーム・トゥ・リードの 8 室の図書室をコミュニティの図書室に指定しました。これらの図書室は近隣のすべての学校が利用することになるため、教育省はさらに資金を投資し、これらの図書室が継続的に地域社会に貢献していけるようにします。さらに、この記念行事の一環として、ムブマランガにある二つの図書室 — それはケネン小学校とエランツェーニ・シャクラにあります — が、その優れた業績を認められ、各地域で今年の最優秀図書室に選ばれました。

教育省は、「学習の基盤作り」というプログラムを学校に導入し、生徒が「すべての作業を中断して読書」できるように、1 日 30 分の読書時間を設けています。

2003

米国、カナダ、イギリスで、ボランティア・チャプターが発足し、募金活動の効率的な拡大を支援。チャプター戦略が策定され、ルーム・トゥ・リードがイギリスで公式な慈善団体として認められる。

2004

勢いを持続



“みんなに読書を”というキャンペーンを、ルーム・トゥ・リードは、書籍を取り揃えた図書室を地域社会に提供することで支援してきました。実際に、2009年に児童書への需要が高まったことから、現地語児童書出版チームが印刷部数を倍増し、教育関係者と協働して、ルーム・トゥ・リードの支援を受けていない学校への本の配布を開始しました。

ザンビア

万人のための教育（EFA）という国連のイニシアチブでは、質の高い教育を受けられるようにすることを目的に、ザンビアにこれまでに前例のない数の教室を建設することを求めてきました。このため、ザンビアでは、校舎のすべての空間が教室として使用されることが多く、図書室用の空きが残されていない状況となっています。後回しにされがちな図書室用のスペースを確保するうえで、ザンビアにおける私たちの活動が重要な役割を果たしています。ルーム・トゥ・リード・ザンビアとリーディング・ルーム・チームは、ニンバ地区の45の新しいコミュニティに教室内図書コーナーを設置する活動を中心に行ってきました。また世界的なセメント企業であるラファージ社と提携し、ルーム・トゥ・リード・ザンビアと地域社会が協力し合い、図書室を5室設置しました。

アフリカのサハラ以南での中等教育機関の在籍率は、世界で最低レベルとなっています。ザンビアでは、全女子生徒のおおよそ半分が初等教育から中等教育へと進学しますが、その修了率は格段に低く、40%未満となっています。ザンビアの女子教育支援プログラムでは、2009年にルーム・トゥ・リードの104名の女子生徒全員が7年生の試験に合格したといううれしい知らせを聞くことができました。この重要な全国試験に合格すれば、生徒は8年生に進級することができます。

バングラデシュ

2009年にルーム・トゥ・リード・バングラデシュが開催した、政府関係者と初等教育の認定教師を対象にした、教室内図書コーナーの運営に関する研修は、国内の非政府組織による研修としては、バングラデシュ史上初の試みとなりました。またバングラデシュのチームは、児童向けの書籍の選択にも非常に厳密な姿勢で取り組んできました。その際に、ルーム・トゥ・リードは、図書選定委員会を通して、政府関係者、国連機関、教育専門家、地元および国際的な組織を、非常に包括的な書籍の品質評価方法の開発・利用過程に関与させ、同委員会が本の調達について決める際の手助けを得ることができました。同チームは、何百冊もの本を実際に読み、また児童に最適な本を選ぶうえでの参考意見を得るために、児童向けのワークショップを開催しました。

バングラデシュの遠隔地域で、図書室プログラムと女子教育支援プログラムの実施を成功させるためには、地域社会の献身的なサポートが欠かせません。地元住民は、地元の住民たちは、支給品や家具を道路のない地域に運搬したり、毎週開かれる少女たちのライフスキル勉強会の場所の安全性を確保するために洪水地域を増強したり、児童の学習環境を向上させるために扇風機を提供するなどの活動を通して、支援を行っています。

現地語の児童書がネパールで出版される。その中の本の一冊、『メロ・ガウン・コ・カサ（MeroGaun Ko Katha）』は、ルーム・トゥ・リードが開催した最初の児童作文コンテストで優勝した少女たちが書いた3つの物語を集めたもの。



ルーム・トゥ・リードの革新性と社会的影響力が認められ、『ファースト・カンパニー』誌モニター・グループ社会資本家賞を初めて受賞し、5回連続で受賞することに。募金活動がさらに広がる。

プログラムのハイライト

一年を振り返って



2009 年は、ルーム・トゥ・リードのプログラムをさらに拡大するとともに、支援国 9 カ国においてさまざまな改善に着手してきました。また、次の 10 年間の指針となる新たな展望と使命を構築するために、1 年にわたり、戦略的に組織全体で能力強化に取り組んだ年でした。世界的に厳しい経済環境ではありましたが、私たちは、中核となるプログラム一つひとつの強化やモニタリングの強化を含む運営状況の改善などに焦点を当て、これらすべてを成し遂げることができました。

識字向上パイロット (試験的) プログラム

読み書きに今後さらなる重点を置いていくことに備え、ルーム・トゥ・リードでは、図書館や現地語の資料を利用する生徒たちの読書習慣を私たちがどのように直接的に向上させることができるかを把握するために、3 つの読書パイロット (試験的) プログラムを実施しました。スリランカとネパールでは、新規に識字向上パイロット (試験的) プログラムが導入され、インドでの読解力向上パイロット (試験的) プログラムは、2 年目を迎えました。ルーム・トゥ・リードのスタッフは、各国で、地方自治体、学校の校長、教師たちと協力し、生徒のための新しい教材作りに取り組みました。これには、語彙力の補強や音声学を含む、読み書き指導を中心とした教材、学んだスキルを児童が練習する機会をもたらず読書教材などが含まれます。ここで学んだ教訓を生かし、最良のプログラム構築に努め、これらの試験的プログラムをほかの国にも拡大していく予定です。

教室内図書コーナーの拡大

ルーム・トゥ・リードでは 2009 年、教室内図書コーナーの設置を優先事項に位置付け、年末までに 8 カ国で 425 カ所の設置を完了しました。教室内に図書コーナーを設置することで、児童が本を利用しやすくなるばかりでなく、教師が授業の中で本を活用することができるようになります。このような図書コーナーの形態を取ることで、ルーム・トゥ・リードでは、専用の図書室の設置が難しい、生徒数の多い学校とも協力し合っていくことができます。すべての図書館・図書室を最大限まで活用できるように、ルーム・トゥ・リードでは、政府や地域のパートナーとより緊密に協力し合い、一定の読書期間を設定するように努めました。今日までに、カンボジア、南アフリカやベトナムの一部地域で、読書期間が定められています。

学校のカリキュラムの補足

現地語出版プログラムは、内容と質の両面において、その取り組みを拡大し続けています。ルーム・トゥ・リードでは、教師や教育の専門家からの意見を参考に、生徒のために革新的な教材を開発しました。地元の学校のカリキュラムを補足し生徒が興味を持つように考案された、初心者向けの読本、童話、ノンフィクション等も含まれます。私たちのチームは、ネパール、カンボジア、ベトナムで、書籍の選択過程に政府関係者を招き、当プログラムの題材が、授業で取り扱われる科目や教材に沿うものにしました。

増加する少女の卒業生

2009 年に中等教育を修了した生徒の数は合計 69 名で、カンボジアで 27 名、インドで 9 名、ネパールで 2 名、ベトナムでは 31 名となっています。卒業生の一部は、地元の地元の短大や大学に進学することが決まっており、そのほかの卒業生も、就職が決まっているか、または地域社会で活動を行っています。

2004



ルーム・トゥ・リード、ベトナムでの 100 校目の開校、カンボジアでの 1,000 の図書館・図書室の開設を祝う。ネパールでは、ルーム・トゥ・リードの現地語児童書がネパリース・ソサエティー・フォー・チルドレンズ・リテラチャー賞を受賞。





18 私たちは奨学生の勉強への意欲を誇りに思うと同時に、これからの人生において選択をしていくための準備ができていると確信しています。

これまでの奨学生が成功を収めることができたのは、ソーシャル・モバイザー（社会活動家）と効果的な関係を築くことができたことが大きいといえます。ソーシャル・モバイザー（社会活動家）とは、女子生徒と頻繁かつ定期的に交流する地域社会の一員のことです。ファシリテーターやメンター（指南役）としての役割を果たすソーシャル・モバイザー（社会活動家）は、少女たちと定期的に連絡を取り合ってライフスキルの訓練を継続できるように支援し、教師とともに勉強会を奨励し、女子教育の重要性について地域社会の人々対話し、またプログラムの提案も行っています。女子教育支援プログラムで果たすその重要な役割を踏まえ、ルーム・トゥ・リードでは、すべての支援対象国の地元の勉強会で、ソーシャル・モバイザー（社会活動家）の能力強化に重点を置きました。

代表的プログラムの評価

ルーム・トゥ・リードが、途上国の子どもたちのために、読み書きのできる環境を作る取り組みを引き続き拡大・強化していく中で、その代表的プログラムである、図書館・図書室プログラムの徹底的な国際比較研究の必要性がますます高まっています。ルーム・トゥ・リードは2009年に、3年間に渡る図書館・図書室プログラムの国際比較評価の第一段階に着手し、その手始めとしてザンビア、ネパール、ラオスにおいて基準のデータ収集を行いました。この評価の目的は、生徒が読み書きできる環境を作っていくうえで、図書館・図書室プログラムがどのように貢献しているのかについて、この組織の活動結果をより正確に把握することでした。この評価では特に、図書館・図書室プログラムが生徒の読書習慣や読書への姿勢に与える影響について、結論を出すことを試んでいます。しかしそれよりも重要なのは、この評価から得られた教訓が、子どもたちが読書をしたいという意欲を高め、最終的には、読み書き能力を生涯を通じて高めていくことにつながるような、活気に満ちた学習環境を作るというルーム・トゥ・リードの目標達成の基盤になることでしょう。

2005

ニーズに応える



2004年の津波を受け、ルーム・トゥ・リードはスリランカに進出し、またラオスにも拡大することを決定。それから2年間で津波の被害を受けたスリランカの農村地域で、80校を開校。



ルーム・トゥ・リードの活動の モニタリング

プログラムの質とその実績の透明性を確保する
うで、モニタリングと評価は、ルーム・トゥ・
リードのさまざまなプログラム開発において大
きな役割を果たしています。私たちのモニタリ
ング・評価チームは 2009 年に、その年までに
活動を行った国で、全プログラムの実績と達成
事項についての情報を収集および分析しました。
その対象となったプロジェクトの数は、合計
14,000 にも上ります。

図書館・図書室プログラムでは、これまでに設
立された図書館・図書室が特に徹底的なモニタ
リングの対象となりました。その結果、2007
年から 2009 年の間に設立された 5,581 の図書
館・図書室のうち、97%が図書分類システムを
採用しており、また 96%が機能的に貸し出し
システムを運用していることがわかりました。

学校建設プログラムでは、2006 年から 2008
年の間に建設された 478 の校舎をルーム・トゥ・
リードが視察・点検し、99%が構造的に健全で
あることが判明しました。ごく一部の校舎には
基本的な維持管理が必要であることを踏まえ、
予防措置のために、私たちの建設する学校に対
して維持管理研修プログラムを実施しています。

このようなモニタリングを行うことで、スタッ
フの能力を形成し、年間ベースの情報を収集で
きたばかりでなく、順調に進んでいる分野と改
善・援助が必要な分野について把握するのに役
立ちました。

継続的にモニタリングすることで、プログラム
をより有益なものにするために、プログラムの
定義と情報収集の方法を常に見直し、分析デー
タに基づいてプログラムの改善すべき点を特定
していきます。



ルーム・トゥ・リードの実績

ルーム・トゥ・リードは 2000 年以來、質の高い教育の機会を
提供することで、400 万人以上の子どもを支援してきました。

- 1,128 校の学校の建設と、9,266 の図書館・図書室の設立。
- 22 カ国語からなる現地語での 433 のオリジナル児童書を出版し、410 万冊以上の書籍を配布。
- ルーム・トゥ・リードのオリジナルのタイトルを含む、740 万冊以上の児童書を配布し、英語および現地語児童書を寄贈。
- 女子教育支援プログラムを通して、9,074 名の女子生徒を支援し、合計 2 万 6,000 年分に相当する女子教育を提供。

(2009 年までの実績)

19



ルーム・トゥ・リード、2,000 の図書館・図書
室の設立に向け、カンボジアで起工式を開催。
ネパールでは、100 万冊目の本を寄贈し、
その快挙を祝福。

ルーム・トゥ・リードは、アジアに
おける活動の拡大を継続的に行い、
最初の戦略的計画に着手。また 4 カ
国を対象に、最初の独立した評価調
査を実施

私たちの将来への展望



ルーム・トゥ・リードの10周年目が迫るにつれ、私たちは、これまでの順調な勢いを保ちつつ、ルーム・トゥ・リードの影響力をさらに高めるような目的意識とリーダーシップをもって次の10年間を迎えることを確実にしたいと考えました。2009年には、参加型の戦略的計画に徹底的に取り組み、次の10年間とそれ以降の目標を明確にし、またその目標達成に必要な主要戦略を策定しました。

20 私たちの未来の目標は、これまでになく意欲的なものとなっています。すなわち、2015年までに開発途上の12カ国以上の国々に住む1,000万人以上の子どもたちが、教育を最大限に受けられるようにするというものです。

ルーム・トゥ・リードの活動は、10年前に、ネパールの子どもたちに本を届けたいというシンプルな願いから始まりました。今日では、アジアとアフリカの9カ国で活動を行う、国際的な組織となり、開発途上国の何百万人もの子どもたちが質の高い教育機会を得られるように支援しています。私たちは、起業家精神と情熱にあふれ、効果的な国際チームを結成し、多様で力強い支援者の基盤を作り、拡大可能なプログラムを確立してきたのです。

私たちはこの10年間で、開発途上国の子どもたちに持続的な変化をもたらすことのできる、さまざまな教育機会を提供するために、包括的な長期プログラムを開発してきました。これらのプログラムには、図書館・図書室プログラム、現地語出版プログラム、学校建設プログラム、女子教育支援プログラムがあります。

近年では、ルーム・トゥ・リードのプログラムの質をさらに向上させ、望ましい結果を測定可能な成果として重視する対策を取ってきました。調査を実施し、戦略的計画を立てた結果、読み書き能力と教育における男女の格差是正という、ふたつの主要な目的に焦点を絞ることになりました。次の10年間を迎えるにあたり、ルーム・トゥ・リードでは、図書館・図書室、児童書、学校、女子教育を通して教育資源の利用機会を提供してきたという実績に基づき、活動内容をさらに広げ、読書指導プログラムや女子のライフスキル・ワークショップの強化を図っていきます。私たちは、教育開発におけるこれら2つの最重要分野での活動において、ルーム・トゥ・リードの影響を最大限に発揮することができると考えています。

2006

新しい大陸での
可能性を模索

ルーム・トゥ・リードは、アフリカへの進出を決定し、最初の活動の拠点国として、南アフリカを選ぶ。南部アフリカとアジアに地域の事務所を開設。



5カ国で女子教育支援プログラムを通して支援を受けている女子生徒の数は、2,000人以上に。



ジョン・ウッドの著作、『マイクロソフトでは出会えなかった天職－僕はこうして社会起業家になった』がハーパー・コリンズ社から出版され、『ニューヨーク・タイムズ』紙や『ワシントン・ポスト』紙、『USAトゥデイ』紙などのメディアに取り上げられる。

ルーム・トゥ・リードがチャリティー・ナビゲーターの4つ星評価を初めて獲得。以来、4年連続で同評価を獲得。また、ゴールドマン・サックス財団から、100万米ドルの企業援助を初めて受ける。

識字教育における取り組み

ルーム・トゥ・リードは、識字向上プログラムを通して、すべての学習の基盤となる読み書き能力に重点を置き、初等教育年齢の児童を対象に、読み書き能力と読書習慣の育成を目指しています。私たちの目標は、独立心の旺盛な読者を育てることであり、この目標を次の方法で達成していきます。まず、文化的に関連性があり、年齢に相応しく、また男女性差に配慮した読み物を利用できる機会を増やすこと、教師や司書が子どもたちへの読み書き能力の指導と読書習慣の育成をより効果的に行えるようにすること、そして、子どもたちが学習しやすいように学校環境を改善することです。

私たちの現在のプログラムには、図書館・図書室プログラム、現地語出版プログラム、学校建設プログラムがあります。これらのプログラムでは、学校や家庭内に読書を奨励する環境を作るために、関連性や独創性があり興味深い読み物を児童に提供し、生徒が読書の楽しさを味わえるようにしています。またこれらのプログラムは、教師、ファシリテーター、司書に対し、子どもの興味をかきたて、読書習慣を養うような読み物や方法を提供しています。

プログラムのモニタリングを通して、私たちが活動する地域社会の子どもたちの多くは、図書室や現地語児童書出版の教材を最大限利用するのに必要な、学年に適した識字能力に欠けていることが判明しました。この問題に対処するために、私たちのインド、ネパール、スリランカのチームは、2008年と2009年に最初の識字向上パイロット（試験的）プログラムを発足させ、児童が自立した読者家や生涯の学習者へと成長していくのに必要条件である、初等教育年齢での読み書き能力に焦点を当てることになりました。これらのパイロット（試験的）プログラムを通して得られた教訓は、私たちの新しい識字向上戦略に役立ったばかりでなく、これらのパイロット（試験的）プログラムにより、読書を奨励する環境作りに焦点を当てることで、ルーム・トゥ・リードがより多くの子どもたちに影響を与えられることが実証されました。読み書き能力を生徒に指導することでこれからのプロジェクトをより有効的に活用し、またプロジェクトから得る評価も大きくなります。

私たちの今後の識字向上プログラムは、書籍の寄贈や図書館と学校の建設を通して、読書習慣を養い、また継続させると同時に、子どもが使いやすく、読み書きを奨励する学校環境作りを続けていきます。読み書き能力の育成を支援することで、私たちの活動内容がさらに広がり、子どもの読み書き能力の開発も活動に含まれることになります。このような活動をすべて統合することにより、より多くの子どもたちを自立した読書家へと成長させる、という私たちの目標を達成することが可能になります。

出典：『2006年万人のための教育グローバル・モニタリング・レポート。生涯の識字能力』（2006年）。パリ、ユネスコ出版局。

識字向上プログラムを通して私たちがもたらしたいと考える変化には、次が挙げられます。

- 初等教育年齢の生徒の読み書き能力と読書習慣を養う。
- 文化に関連性があり、年齢に相応しく、男女性差に配慮した読み物を利用できる機会を増やす。
- 教師や司書が、読み書き能力の指導と読書習慣の育成をより効果的に行えるようにする。
- 児童が学習・読書するためにより相応しい学校環境を作る。
- 家族や生徒同士、地域社会における読書に対する認識と支援を育む。
- 政府と協力し合い、初等教育での識字を奨励するための政策やプログラムを支援する。

識字向上における進展

1998: 英語の書籍を寄贈

➢ 2000: 図書館・図書室の設立

➢ 2001: 学校の建設

➢ 2003: 現地語児童書の出版

➢ 2004: 教師と司書の職業訓練

➢ 2008: 教室内図書コーナーの設置

➢ 2010以降: 読み書きの指導

2007

2度目の
大きな転換点



ルーム・トゥ・リードが、アフリカで2カ国目となるザンビアで活動を開始。インドとネパールの両国で、女子教育支援プログラムから、第一期生の少女たちが卒業。

教育における男女の格差是正

世界中で、中等教育機関に在籍し卒業する生徒の数に女子が占める割合は、極端に低くなっています。学校に通う女子と男子の数がほぼ同じである場合でも、多くの国では、カリキュラムや授業の進め方、指導の仕方の面で、女子に対する性差別がいまだにあることも事実です。また女子生徒は、学校を修了するのに、さまざまな障害を乗り越える必要があります。その例として、女性教師や良い模範となる人物の欠如、男性教師や男子生徒からの性的嫌がらせや暴力、そして女子用トイレの不備などが挙げられます。それに加えて、女子生徒は、徒歩で通学する際に危険が伴うことが多く、また早婚、弟や妹の世話、家計の援助などの理由で、家族からの圧力で学校を退学させられることもあります。

世界銀行やその他の専門家によれば、女子教育というのは、男女間の教育格差を埋めるという目標に加えて、まさに賢明な投資であるといえます。女子生徒が学ぶことにより、その家族や地域、社会のすべてが恩恵を受けることになるのです。これは、研究により何度も実証されている事実です。

ルーム・トゥ・リードでは、教育における男女の格差是正を促進し、すべての子どもが質の高い教育を受けられるよう推進するための手段として、女子生徒の中等教育における平等化に焦点を当てていきます。私たちの目標は、女子生徒が中等教育を受ける機会を平等に得られるようにすること、学業を続けるために必要な支援を提供すること（これには女子生徒に優しい学校環境作りも含まれます）、そしてライフスキルを向上させる機会を設けることです。

教育の専門家の間でも、正式な教育を受けたことの利点を十分に活かすにはライフスキルの習得が不可欠である、という認識が高まっているにもかかわらず、ライフスキルの指導がおろそかにされることが多くなっています。自分に対する自信、自意識、意思決定、問題解決などの能力やスキルを少女が身につけていれば、思春期または思春期後に直面するであろう困難な状況や決断に備えて準備することができます。

ルーム・トゥ・リードの女子教育支援プログラムは、その取り組みの初期段階では、必要に応じた女子生徒のみを対象とした奨学金プログラムで、女子生徒が中等教育を修了できるようにすることを目的としていました。年月の経過とともに、プログラムの焦点は奨学金からより包括的なプログラムへと移行し、単なる経済的支援だけでは女子教育が直面する障害を乗り越えることはできないという事実を認識するようになりました。今日では、これらのプログラムは、奨学金を提供するばかりでなく、少女の自尊心の向上、社会見学や新しいアイデアに触れる等、視野を拡大する機会を含む、ライフスキルの習得に力を入れています。近年では、地元の女性が、少女たちのメンター（指南役）や擁護者としての訓練を受け、定期的かつ直接的な支援を継続的に提供できるようにしています。それに加えて、保護者の間で、娘を学校に通学させることの価値に対する認識を高めることにも重点が置かれています。これらすべての要素を組み合わせることで、当プログラムの少女たちは、中等教育を修了し、人生における重要な決断をするうえで必要となるライフスキルを身につけることができるようになります。

ジョン・ウッドが人気 TV トーク番組『オプラ・ウィンフリー・ショー』に出演。ジョンのコーナーは「数百万ドル（数億円）の報酬に別れを告げて（I Walked Away from Millions）」と題される。この回は 3 度放映され、オプラ・ウィンフリーの読書キャンペーンによる宣伝効果で、110 万米ドル（約 9,900 万円）以上を集める。

女子教育支援プログラムを通して私たちがもたらしたいと考える変化には、次が挙げられます。

- 女子生徒の学校の卒業修了率を向上させる。
- 少女たちの自意識、意思決定、問題解決能力を向上させる。
- 学校環境を改善し、少女たちのニーズに対応できるようにする。
- 児童が学習・読書するためにより相応しい学校環境を作る。
- 家族、生徒同士、地域社会における、女子教育に対する認識やサポートを生み出す。
- 政府と協力し合い、女子教育を促進する政策やプログラムを支援する。

23

教育における男女の格差是正における進展

2000: 物的な支援、個人指導、学業面の支援

➢ 2004: 遠足、進路指導、就職の可能性の模索

➢ 2007: ライフスキル（勉強会やアクティビティ）

➢ 2008: 生徒に対する助言（社会活動家）、補習教育、橋渡し教育

➢ 2010以降: 学校や地域社会での活動



私たちの世界的な認知度



24 ルーム・トゥ・リードにとって 2009 年もまた驚くべき年となりました。当組織の知名度が高まり、また世界的なチャプター（拠点）のネットワークも拡大した年でした。業界大手の企業や影響力のあるメディアと戦略的提携をいくつか新たに結んだばかりでなく、当組織がメディアに幅広く取り上げられることにより世界的なニュースとなり、また数々の著名な賞の受賞や講演を通じて私たちの活動に対する評判を高めることができました。このようなすばらしい成果を通して、ルーム・トゥ・リードは、最初の 10 年間でこれまでになく力強く終えることができたばかりでなく、今後さらなる変化をもたらすための体制を整えることができたのです。

チャプター（拠点）ネットワークの拡大

ルーム・トゥ・リードのチャプター（拠点）ネットワークは、7つのチャプターを新たに加え、2009 年にさらなる拡大を続けました。これには、アメリカのアスペンバレー、ロサンゼルス、ナッシュビル、カナダのモントリオール、オーストラリアのブリスベン、キャンベラ、メルボルンが含まれます。私たちのボランティアのネットワークは、世界中の 45 以上のチャプター（拠点）から構成されます。ルーム・トゥ・リードでは、現在合計で 5,500 名以上のボランティアがイベントの企画や認知度の向上のために活動しています。これらのチャプター（拠点）は、2009 年に 670 万米ドル（約 6 億円）以上の募金を集め、2005 年以来、ルーム・トゥ・リードの運営予算の平均 30% の資金を調達してきました。

私たちのチャプター（拠点）ネットワークは、数多くの募金活動イベントを通して、ルーム・トゥ・リードの認知度を高めるのに役立ってきました。その中でも特筆すべきなのは、シドニー、香港、東京での催しで、総額 250 万米ドル（約 2 億 2,500 万円）以上の募金を集めたことです。これに加えて、世界中で、チャプター（拠点）内での参加やイベントにおける創造性が大幅に増した年でもありました。カルガリーでは、ガールズ・ナイト・アウトという楽しい夜の行事を企画し、ハリウッド（インド映画産業）のテーマを用いて、インドのプログラム向けの募金を集めました。またグリニッチでは、作家のパトリシア・マコーミックとともに「読書集会」というイベントを開催しました。

※1米ドル=90 円で算出しています。

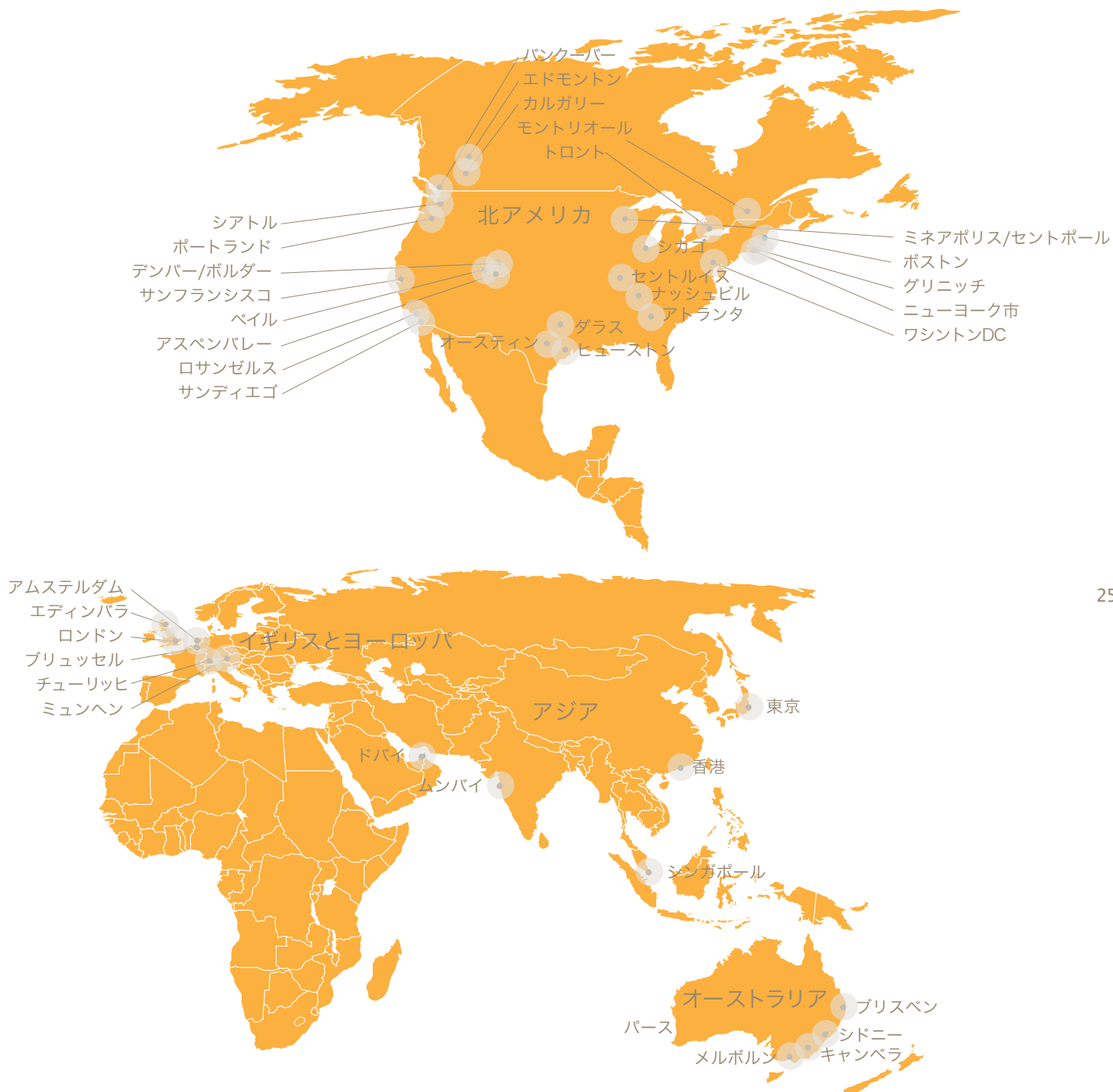
2007

クリントン・グローバル・イニシアチブ (CGI) において、ビル・クリントン大統領と壇上に立った際に、ジョンとエリンがルーム・トゥ・ドリーム・キャンペーンを発表。2010 年までに 1 万の図書館を設立することで、ルーム・トゥ・リードの与える影響を倍増することを CGI に約束。



ルーム・トゥ・リードの現地語出版プログラムが、アカデミー・フォー・エジュケーション・ディベロップメントから、「教育における画期的なアイデア」賞の 6 受賞者の一つに選ばれる。

グローバル・チャプター・ネットワーク



25

2008

より大きく
大胆な構想



米国図書館協会が、ルーム・トゥ・リードに会長賞を授与。ルーム・トゥ・リードでも、「ザッキーズ (Zackies)」という独自の賞を設け、チャプター（拠点）の優れた実績を評価することに。



活動促進のためのパートナーシップの構築

2009 年には、私たちの活動を普及させていくためのパートナーシップを 3 件結び、新たな賛同者と経済的支援を得ることができました。

高級茶の大手販売業者であるリパブリックオブティーは、ルーム・トゥ・リードと提携し、子ども向けのリトル・シティズンズ・ハーブティーの開発に携わりました。リトル・シティズンズ・ハーブティーを 1 缶売り上げるごとに、1 米ドル（約 90 円）がリパブリックオブティーからアジアや南アフリカに図書室を設立するための資金として寄付されます。この提携の最初の年である 2009 年には、年間の売り上げで 6 室の図書室に資金援助を行うことができました。このプログラムの一環として、オリジナルの子ども向け茶器や、ビロード製おもちゃ、2010 年に発売されたイヤー・オブ・タイガー・ティーも開発されました。

これに加えて、FEED プロジェクトでは、地球規模での教育の促進のために、FEED/READ 3 という特別なバッグを発売しました。このバッグはバーンズ&ノーブルが米国で独占的に販売しており、売り上げからの収益金は、ルーム・トゥ・リードの現地語出版プログラムと国連世界食糧計画の支援に充てられています。

- 26 2009 年には、オーストラリアのソフトウェア会社、アトラシアンが、111 カ国で 3 万以上のライセンスを販売し、ルーム・トゥ・リードの資金として 25 万米ドル（約 2,250 万円）以上を調達しました。

「ルーム・トゥ・リードの実践的なアプローチは、私たちの起業家精神に訴えるもので、私たちは一企業として、世界にプラスの影響を与える方法を追求していきたいと考えています」

ツイッターの共同創設者、ビズ・ストーン

ソーシャルメディアでの存在感をアピール

2009 年には、現在最も話題となっている新しいソーシャルメディア・プラットフォームであるツイッターが、コーポレート・ソーシャル・イノベーション（企業の社会的革新）の公式なパートナー第一号としてルーム・トゥ・リードを選びました。このパートナーシップは、10 月にフレッジリング（@fledgling）というツイッターブランドのワインの発表をもって発足し、200 以上のニュースやブログの記事などを通じて、ルーム・トゥ・リードにメディアの大きな注目が集まりました。またこれにより、ルーム・トゥ・リード（@roomtoread）は、40 万人以上のツイッターのフォロワーを獲得することができ、世界で上位 400 のツイッターアカウントに数えられるほどになりました。クラッシュパッド・ワイナリーで生産されたこのワインは、2010 年秋に発売される予定で、1 本売り上げるごとに 5 米ドル（約 450 円）がルーム・トゥ・リードのインドでのプログラムに寄付されます。

世界中で注目を浴びる

私たちは、『ファイナンシャル・タイムズ』紙に、同紙の期間限定読者キャンペーンの一環として、2009～2010 年の慈善活動パートナーに選ばれたことを光栄に思います。この 2 カ月の資金調達キャンペーンでは、バークレイズ・キャピタルを筆頭スポンサーとして、ルーム・トゥ・リードのプログラムに対して 430 万米ドル（約 3 億 8,700 万円）という記録的な募金を集めることができました。また、ルーム・トゥ・リードに関する特集記事が 10 件以上掲載され、大きな関心を集めることに成功しました。

※1米ドル=90円で算出しています。

2008

1,000,000 BOOKS!

ドバイ・ケア基金が、ミリオン・ブック・チャレンジを通して、70万冊以上に相当する書籍用資金をルーム・トゥ・リードに提供。このプログラムは、生徒たちに呼びかけ2週間で合計100万冊の本を読むという企画。

グローバルなPR企業のケッチャムが、ルーム・トゥ・リードを独占的な非営利パートナーに選ぶ。オリバー・ワイマン・グループが戦略的な無償支援を提供。



Room to Dream キャンペーン

2009年は、ルーム・トゥ・ドリーム・キャンペーンの2年目にあたります。このキャンペーンは、図書館・図書室と現地語出版プログラムを拡大するために、6,000万米ドル（約5億4,000万円）の募金を集めることを目的とした、3年間の野心的な募金活動計画です。ルーム・トゥ・ドリームが成功すれば、2010年までに、世界中の貧しい地域社会に、11,000以上の図書館・図書室を設立することになります。私たちは、現地語出版プログラムを通して、ルーム・トゥ・ドリームのオリジナル児童書を500タイトル以上出版し、またさらに400万冊の英語の寄贈児童書を集める予定です。

『ファイナンシャル・タイムズ』紙では、読み書きの指導と教育機会の提供は、経済発展を促進するうえで、最も重要な方法のひとつであると考えています。ルーム・トゥ・リードが、当紙の期間限定キャンペーンにふさわしい慈善活動パートナーとして選出された理由はそこにあります」

『ファイナンシャル・タイムズ』紙編集者、ライオネル・バーバー

『ファイナンシャル・タイムズ』紙の記事以外にも、ルーム・トゥ・リードは、そのほかの数多くのメディアで世界的に取り上げられました。『バロンズ』誌では、慈善目的の資金を最も効果的に分配している国際的団体について紹介する特集を組み、ジョン・ウッドとルーム・トゥ・リードを「ベスト慈善事業家25」のひとりに選ばれました。選出しました。この記事の中で、ルーム・トゥ・リードは、25の組織のうち11位にランク付けされ、「影響力の強い慈善団体」として認められました。2009年にルーム・トゥ・リードについて取り上げた主要メディアには、AP通信や、『ロサンゼルス・タイムズ』紙、『フォーチュン』誌、『パレード』誌、『USAトゥデイ』紙、『リアル・シンプル』誌、『メンズ・ジャーナル』誌、『ワシントン・ポスト』紙が含まれます。

受賞やイベントを通して、高まる認知度

ルーム・トゥ・リードは、その健全な財政管理が評価され、チャリティー・ナビゲーターの四つ星（最高評価）を再び獲得することができました。チャリティー・ナビゲーターは、アメリカで最大かつ最も利用されている慈善活動の独立評価機関です。この評価を4年連続で獲得できたのは光栄なことであり、そのような栄誉に授かることができたのは、評価の対象となっている慈善団体のうち、わずか8%に過ぎません。

ルーム・トゥ・リードの幹部は、2009年に、世界中で数々の基調講演やリーダーシップをテーマとした講演を光栄にも行うことができました。ジョン・ウッドは、オックスフォードのスコール・ワールド・フォーラム、アスペン・アイデア・フェスティバル、サンフランシスコのコモンウェルス・クラブをはじめとするイベントで、主要な講演者として招待されました。エリン・ガンジュは、カルガリーのウーマン・オブ・インフルエンス・コンファレンス、サンフランシスコ・アントレプレナー・オーガニゼーション、サンフランシスコのプロフェッショナル・ビジネス・ウーマン・オブ・カリフォルニア・コンファレンスで主要プレゼンターとして講演を行いました。

ルーム・トゥ・リードがバングラデシュでの活動に着手。インド、スリランカ、ネパールでは、ルーム・トゥ・リードの図書館・図書室や現地語書籍をより効果的に活用するために、読み書きと読書のパイロット（試験的）プロジェクトを開始。

ルーム・トゥ・ドリーム・キャンペーンは、2008年と2009年にルーム・トゥ・リードが成功を収めるうえで、重要な役割を果たしました。実際に、2009年末までに、当組織と最も緊密な関係を持つ支援者の寛大なサポートにより、キャンペーン目標の3分の2の募金を集めることができました。

27

このようにして集めた募金により、私たちの優秀なスタッフは、子どもたちに質の高い支援を提供し、その家族や地域社会、未来の世代が最大の恩恵を受けられるようにプログラムを立案・実施するのに、大きな構想を持って考えることができます。私たちは、ルーム・トゥ・ドリームの活動が、2010年末までに500万人の子どもたちに変化をもたらし、機会を提供するという目標達成に向けて順調に進んでいることを大変うれしく思います。



企業および財団のスポンサー

ルーム・トゥ・リードの歴史を通して、企業や財団のスポンサーの皆さまには、当組織のプログラムや革新的なビジネスモデルに対して一貫したご支援をいただけてまいりました。世界有数の財団ばかりでなく、世界中のあらゆる分野の優良企業のスポンサーの皆さまが、私たちの国際的な活動にさらなるご支援をお約束くださり、ルーム・トゥ・リードは最初の10年間を大変な勢いをもって終えることができました。

私たちは、すべての企業・財団スポンサーの皆さまに対し、その寛大な貢献に感謝の意を表します。企業・財団スポンサーの経済的援助および物品・サービス支援のおかげで、アジアとアフリカにプログラムを拡大し、何百万人もの子どもたちに助けの手を差し伸べることができたのです。

「ルーム・トゥ・リードは、スコール財団が行う投資の中でも最も有益な団体の1つで、社会起業家精神とその革新的発想により、その活動が大きな影響を与える可能性を持っていることが実証されています。」

スコール財団理事兼最高経営責任者
サリー・オスバーク

主要なスポンサー



ドバイ・ケア基金は、大成功を収めた2008年のミリオン・ブック・チャレンジ以来、ルーム・トゥ・リードの主要なパートナーを務めてくださっています。そのご支援のおかげで、アジアとアフリカで、489の図書館・図書室の設立や、14タイトルの新しい児童書の出版、70万冊以上の英語と現地語書籍の配布を実現することができました。

CREDIT SUISSE

クレディ・スイスは、私たちの最大の企業スポンサーで、奨学金や物品・サービス提供を通してルーム・トゥ・リードをご支援くださっています。クレディ・スイスは、グローバル・エジュケーション・イニシアチブを通して、世界中の貧しい学齢児童や青少年のために、教育機会の質と効果を向上させることを目指しています。クレディ・スイスは、アジアやアフリカの図書館・図書室や学校建設プログラム支援に加えて、アフリカにおける戦略上の中心的サポートをご提供くださっています。



パークレイズ・キャピタルは、東南アジアの図書館・図書室と現地語出版プログラムを発展させるための投資を通じて、ルーム・トゥ・リードと長期的な協働関係を継続し、カンボジアとベトナムの子どもたちのために、図書館・図書室や現地語書籍をサポートくださっています。パークレイズ・キャピタルはまた、『ファイナンシャル・タイムズ』紙の2009～2010年の慈善活動キャンペーンで筆頭スポンサーを務め、同紙の期間限定キャンペーン史上最大の成功へと導くうえで大きな役割を果たしました。

Bloomberg

ブルームバーグは、アジアとアフリカの両地域で、図書館・図書室プログラムに投資くださっています。またインドやスリランカ、南アフリカの1万人以上の子どもたちを対象に、ルーム・トゥ・リードの図書館・図書室設立のために資金を提供いただいております。

SCHOLASTIC

スカラスティック・インクは、現地語出版プログラムにおける出版の専門家として、信頼のおけるアドバイザーとして支援いただくことに加えて、図書館・図書室プログラムの発足時から、同プログラムの主要なスポンサーを務めてくださっています。同社には、2009年に、拡大する図書室ネットワークのために、寄贈や割引を通して45万冊以上の英語の児童書をご提供いただきました。



ピアソン・ロングマンとピアソン財団は、何千冊にも及ぶ英語の児童書の寛大な寄贈と、ピアソン財団の新しいウィー・ギブ・ブック・プログラムを通して、ルーム・トゥ・リードのプログラムを引き続きご支援くださっています。

2009

将来の計画を
立てる

ネパールとラオスで、現地語書籍4タイトルが賞を受賞。スリランカでは、長期的な内戦の終結とともに、プログラムが北部に拡大。





「社会に積極的に貢献するというクレディ・スイスの取り組みの一環として、この5年間、ルーム・トゥ・リードと協力し合えたことを誇りに思います。ルーム・トゥ・リードが、地球規模で教育の重要性の認識を高め、援助を必要とする人々にさらなる機会を生み出すプロジェクトを拡大していく中で、私たちはルーム・トゥ・リードを今後も継続的に支援していきます」

クレディ・スイス・グループ AG 会長兼クレディ・スイス財団会長、ハンス・ウルリッヒ・ドゥーリック

5万ドル(約450万円)以上を寄付いただいた企業および財団 (2009年1月1日～2009年12月31日)

アビーム・コンサルティング・リミテッド
アドルフ・H・ランディーン慈善基金
アトラシアン基金
バークレイズ・キャピタル
ベター・ワールド・ブックス
ビル&メリンダ・ゲイツ財団
ブルームバーグLP
ビーオーエル・ドット・コム
ブックオフ・コーポレーション・リミテッド
CAF オーストラリア
クリフォードチャンス
クレディ・スイス
デ・ブラウ・ブラックストーン・ウエストブロウク NV
ドイツ銀行
ドッジ・アンド・コックス・インベス
トメント・マネージャーズ

ドバイ・ケア基金
フィード・プロジェクト LLC
フォー・エーカー・トラスト
ゴールドマン・サックス財団
ジョン・アンド・フランシス・ベック
財団
カドゥーリ慈善基金
リンクレーターズ
マイクロソフト
ブラネット・ウィラー財団
ブルーデンシャル・コーポレーション・アジア
クインテセンシャル
スコール財団
シマンテックコーポレーション
ELMA 財団
ホーラス・W・ゴールドスミス財団
ウォーバーグ・ピンカス財団
ウィリアム・アンド・フローラ・ヒュー
レット財団
ウエスタン・ユニオン財団
センストロム・フィランソロピース

5万ドル(約450万円)以上の物品・サービス支援を提供 いただいた企業および財団 (2009年1月1日～2009年12月31日)

ブラザーズ・ブラザー財団
クレディ・スイス
ラファージ
ピアソン・ロングマン/ピアソン財団
セーバー財団
セールスフォース・ドットコム
スカラスティック・インク

ルーム・トゥ・リードは、クレディ・スイスにロンドン、香港、東京での事務所スペースの寛大なご提供に感謝いたします。また『ファイナンシャル・タイムズ』紙のニューヨークでの事務所スペースのご提供に対して、感謝の意を表します。

また、ラファージ社には、ザンビアでのルーム・トゥ・リードのインフラ整備プロジェクトにおける寄付およびセメント貨物の配送、そして書籍発送の手配に対して深く感謝いたします。

ルーム・トゥ・リードは、次の10年間を組織として迎えるにあたり、今後の戦略的計画に着手。

現在40以上を数えるチャプター（拠点）ネットワークが、オーストラリア、インド、中東に拡大。

EはEfficient(効率)のE 決算報告書

ルーム・トゥ・リードは、意欲的なプログラム目標と、運営の効率性のバランスを慎重に保つよう努力しています。ルーム・トゥ・リードは、その優れた財務責任能力と健全な経営が認められ、2006年以来毎年、羨望の的である、チャリティー・ナビゲーターの4つ星の評価を得ています。



2009年の財務報告の概要は以下の通りです。

30 >現金や株の寄付により、2,830 万米ドル（約25億4,700万円）という順調な収益増を記録。前年合計 2,220 万米ドル（約19 億 9,800 万円）より 28% 増。主に児童書からなる物品支援の寄贈額は 430 万米ドル（約3 億 8,700 万円）。

>海外の募金活動事務所、チャプター、関連団体を通して、米国外で集めた募金額は1,310万米ドル（約11 億 7,900 万円）。前年合計 1,030 万米ドル（約9 億 2,700 万円）と比べて 27%増。

>ルーム・トゥ・リードのプログラムへの投資額合計は 2,350 万米ドル（約 21 億 1,500 万円）。前年合計 2,020 万米ドル（約 18 億 1,800 万円）より 16%増。

>全支出のうち、83%はプログラム費用としての出費。経費に充当されたのは 1 ドル（約 90 円）のうちわずか 17 セント（約 15 円）。

※1米ドル=90 円で算出しています。

活動報告書

2008 年 12 月期および 2009 年 12 月期（米ドル）

支援および収益	2009	2008
企業	\$4,192,452	\$5,449,609
財団	\$5,409,025	\$2,447,819
個人	\$18,302,598	\$13,824,299
学校およびその他	\$351,508	\$436,610
物品・サービス等	\$4,557,956	\$4,453,739
投資収益/（損失）	\$239,651	\$（278,412）
その他収入	\$386,797	\$12,320
支援および収益の合計	\$33,439,987	\$26,345,984

運営経費	2009	2008
プログラム運営費		
図書館・図書室設立費	\$5,612,707	\$4,388,254
寄贈図書費・その他寄贈物品費	\$4,347,079	\$4,309,077
学校建設費	\$3,460,638	\$2,996,097
女子奨学金	\$1,278,447	\$981,342
現地語出版費	\$679,326	\$631,229
一般管理費	\$1,794,493	1,224,550
会議費・旅費	\$1,083,025	\$745,477
支援対象国内の人件費	\$2,202,540	\$2,084,369
専門家報酬	\$395,536	\$724,144
米国および他地域の人件費	\$2,685,174	\$2,150,145
プログラム運営費合計	\$23,538,965	\$20,234,684
運営・管理費	\$1,824,427	\$1,686,126
募金活動費	\$3,038,851	\$2,280,058
運営経費合計	\$28,402,243	\$24,200,868

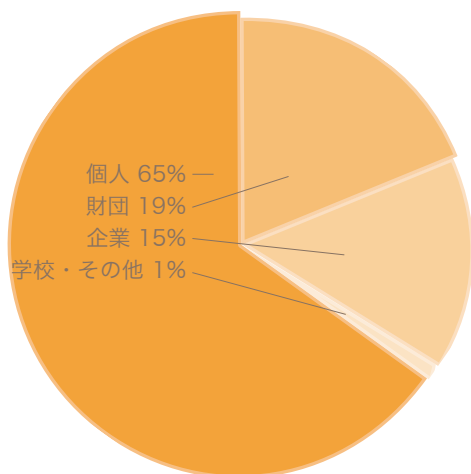
資産	2009	2008
非拘束純資産の変動	\$1,326,707	\$1,416,804
一時拘束純資産の変動	\$3,711,037	\$728,312
期首非拘束純資産	\$6,974,057	\$5,557,253
期首一時拘束純資産	\$7,761,772	\$7,033,460
期末純資産	\$19,773,573	\$14,735,829

2009

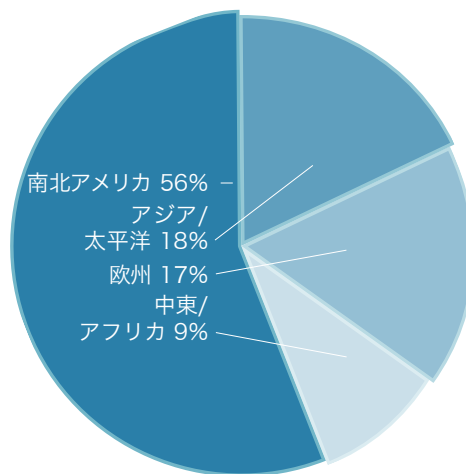
『ファイナンシャル・タイムズ』紙がルーム・トゥ・リードを同紙の期間限定キャンペーンの慈善団体に選出。また、ツイッターは、ルーム・トゥ・リードをコーポレート・ソーシャル・イノベーション・パートナー第一号に指名。



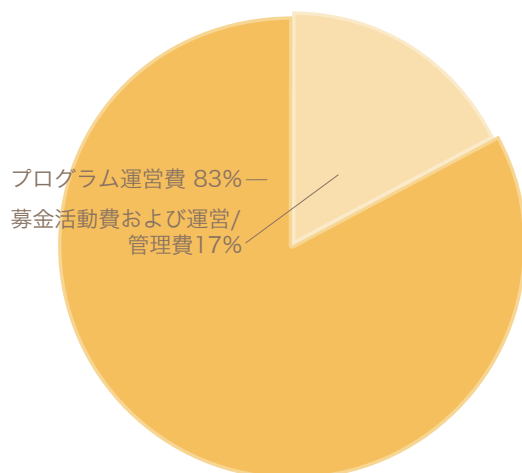
2009
寄付者の内訳



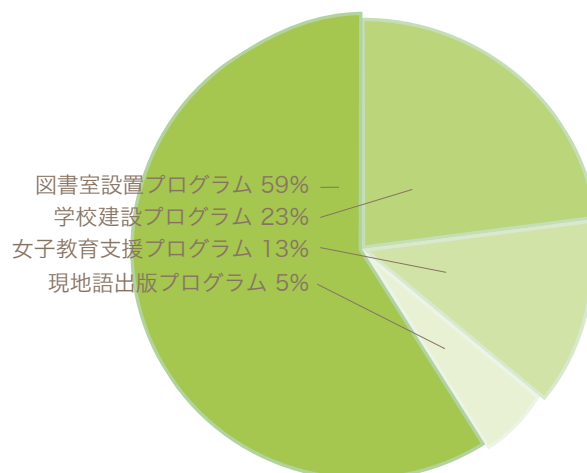
2009
地域別財源



2009
総経費の内訳



2009
使途別プログラム費の内訳



2010

10の年

ルーム・トゥ・リードが、読み書き能力と教育における男女の格差是正に焦点を絞る。

ルーム・トゥ・リードが公式に10周年目を迎えたその年に、1万の図書館・図書室の開設と、女子教育支援プログラムに1万人目の女子生徒を迎えることで、「10の年」を祝福。

理事会役員とスタッフ

理事会役員

ジョン・ウッド(理事長)
ルーム・トゥ・リード創設者

クリストファー・S・ピア
アイアンマーク・ロー・グループ、
創設メンバー

クレイグ・ブルイエ
マイクロソフト・ビジネス・ソリュー
ションズ、元最高財務責任者

ジェリー・デルミシエ
パークレイズ・キャピタル、社長

スコット・キャブニック
ハイブリッジ・キャピタル・マネージ
メント、マネージング・パートナー

ティム・クーグル
ヤフー、元最高経営責任者

キム・アンスタット・モートン

32 **ダンビザ・モヨ**
経済学者、『援助じゃアフリカは発展し
ない』著者

フェルナンド・ライマーズ
ハーバード大学教育学大学院、国際教
育政策プログラム、ディレクター

ジョン・リディング
『ファイナンシャル・タイムズ』紙、最
高経営責任者

ヒラリー・バレンタイン
ブラック&ホワイート・デザイン、
パートナー

諮問委員会

ジョン・ボサムリー
フォー・エーカー・トラスト、
創設者兼理事

アーネスト・チョウ
センサト・キャピタル・マネージメント、
パートナー兼創設者

ルイス・クラウチ博士
RTI インターナショナル、インターナ
ショナル・ディベロップメント・グルー
プ、副社長

ロブ・フラハティ
ケッチャム・インク、社長兼シニア・パー
トナー

アディ・ラウディアディス
ゴールドマン・サックス、パートナー

メリッサ・J・マー
アジア・オルタナティブ・マネージ
メント LLC、共同創設者兼マネージン
グ・パートナー

パット・マクドウェル
クラウド・ナイン財団、創設者兼理事長

アルル・メネセス
マイクロソフトリサーチ、プリンシパ
ル・ソフトウェア・アーキテクト

シャーリー・ミスケ博士
ミスケ・ウィット&アソシエイツ・イン
ク、社長兼シニア・コンサルタント

デービッド・モンク
NERA エコノミック・コンサルティング
グ、副社長

キャレン・マンディ博士
トロント大学、准教授兼カナダ・リサー
チ・チェア

ステイジア・オブレスキー
ポジット・サイエンス、最高財務責任者

M・R・ランガスワミ
サンド・ヒル・グループ LLC、共同創設者

キャロル・クヌース・サコイアン博士
スカラスティック・インターナショナ
ル、インターナショナル・ビジネス・ディ
ベロップメント、副社長

ティム・ウッド
グラミン財団、モバイル・ヘルス・イ
ノベーション、ディレクター

メロディー・ザバラ
アジア財団、ブックス・フォー・アジア、
ディレクター

マネージメント・チーム
ジョン・ウッド 創設者兼理事長

エリン・ガンジュ
共同創設者兼最高経営責任者

ジョアン・チュウ 最高財務責任者

リサ・ホーガン 最高開発責任者

コーリー・ヘイマン博士
戦略担当顧問

ディア・ジングラン
最高プログラム責任者

ローリー・マクリーズ
最高人材活用責任者

スティーブン・ジーママン
運営責任者

地域担当ディレクター

ワイズマン・ングワタ
南アフリカ地域担当ディレクター

ディネシュ・シュレスト
共同創設者、
地域人材・運営管理ディレクター

モラゴ・メアリー・ツェベ
南アフリカ地域プログラム・ディ
レクター

カントリー・ディレクター

スニシャ・アフジャ
インド担当ディレクター兼ベトナム
担当ディレクター代理

フローレンス・チブウェシャ
ザンビア担当ディレクター

グレンフライ・デ・メル
スリランカ担当ディレクター

ザキ・ハッサン
バングラデシュ担当ディレクター

カル・カン
カンボジア担当ディレクター

クリストファー・モスピ
南アフリカ担当ディレクター

ソンペット・ポンパチャン
ラオス担当ディレクター

プシュカ・シュレスト
ネパール担当ディレクター

2015

私たちの将来を
心に描いて

ルーム・トゥ・リードは、開発途上国の十数カ
国以上の国々で、1,000 万人以上の子どもに援
助を差し伸べる予定。



ルーム・トゥ・リードは、「子どもの教育が世界を変える」ことを信じています。私たちは、すべての子どもたちが質の高い教育を受けることで自分の潜在能力を十分に発揮し、地域社会や世界に貢献できるような世界を構想しています。



子どもの教育が世界を変える

ルーム・トゥ・リード本部 • 111 Sutter Street, 16th Floor • San Francisco, CA 94104 • United States • +1 415 561 3331

www.roomtoread.org

ルーム・トゥ・リード
(ニューヨーク)

1330 Avenue of the Americas
9th Floor
New York, NY 10019
United States

ルーム・トゥ・リード
(ロンドン)

One Cabot Square
London E14 4QJ
United Kingdom

ルーム・トゥ・リード
(香港)

22/F International Commerce Centre
One Austin Road West
Kowloon
Hong Kong

ルーム・トゥ・リード
(日本)

Izumi Garden Tower 26F
1-6-1 Roppongi Minato-ku
Tokyo, 106-6024
Japan

ルーム・トゥ・リードは、ロンドン、香港、東京でのクレディ・スイスの寛大な事務所スペースのご提供と、『ファイナンス・タイムズ』紙のニューヨークでの事務所スペースのご提供に対して、感謝の意を表します。